

HELLO!!!

わたしたちの町を守って……



外国人指導助手
ポール・ダイボール

Paul Dyball

内子町の皆さん、こんにちは。
今回は、いま先進国の国々が直面している、田舎町の人口減少問題に歯止めをかけるために、わたしたちに何ができるのかについて書きたいと思います。

世界中で田舎町が消えようとしています。産業や仕事の不足が原因で、人々が町から去って行くからです。内子町もこの傾向に違いありません。

オーストラリアにも、都市からあまり離れていない田舎町や、日本によくあるように15～20kmしか町と町の間が離れていないような田舎町があります。この「都市に近い」という点は、消えかけている町を復活させる上で有利になってくると思います。

平成17年に旧内子町・旧五十崎町・旧小田町が合併して新しい内子町になりました。そのおかげで内子町は大きくなりましたが、それは決して町がゆっくりと消えつつあることを止めるものではありません。

ん。皆さんが「広報うちこ」の“うぶごえ”と“おくやみ”をご覧になった通りです。その上、若者が就職のために町から出て行くという自然減もあります。

では、内子町のような町がこの傾向を止めるにはどうすればいいのでしょうか？ 町では、町外の人々や企業に対し、内子町に来てとどまってもらえるような提案を考える必要があると思います。目標は内子町からの人口流出を止めることと、家族で移り住んでもらえるようにすることです。

Town Open Day (町開放日)
特別なライフスタイルがあるというのは、田舎町の素晴らしい特徴の一つです。

田舎町にはたいてい、都市に比べてたくさんの空間があり、落ち着きがあって、犯罪も少なく、住む場所も安く、人々も親切です。それらは人々を魅了することができます。

オーストラリアの都市に近いある田舎町では、町の“Open Days”という日があります。その日は、町が

人々を招待し、どんな設備があるかを実際に見てもらったり、生活にはどれくらいお金がかかるかといった情報を提供したりします。また昼食を準備し、地元の人々との交流の場を設けます。そして町に住んでくれる家族には、最初の1年間の税金を免除し、必要ならば地元での仕事や、すぐ近くの町への就職を斡旋します。

ほかのところでは、その町に来て住んでくれるのであれば、通常よりも家や土地を安く提供してくれます。またタスマニアのある町では、都市の50%以下の価格で家を提供してくれるところもあります。

内子町は、松山市や大洲市そして宇和島市へと路線でつながっていることも有利な点です。通勤に便利になっています。

大洲市や松山市に住んでいる家族が内子町に来て住んでくれるように働きかける、創造的な方法はたくさんあります。

今回は内子町での仕事を創造する方法を考えてみましょう。

わが家の新しい家族を紹介します

4月1日、わが家に新しい家族が誕生しました。

八幡浜市内の病院で生まれた女の子。名前は「原 娃俐^{あいり}」です。特技はわたしを眠らせてくれないことです。

